



渡辺 正 学校教育指導主幹
舟形町教育委員会

2 今後の展望 のりしろづくり

野尻 次に今後の展望として、「のりしろ」づくりをどのように考えているかお聞かせください。

矢部 中学校0年生の取組はこれまでも丁寧に行ってきたので、今後は小学校7年生の取組に力を入れていきたいです。小学校でどのようなことをやってきたかを情報共有し、小学校で取り組んできたことを来年度も継続していきたいと思います。

野尻 「ワンチーム大作戦」のような小学校の取組を継続するようなイメージでしょうか。

矢部 そうですね。小学校と丁寧に関連し、中学校入学後のストレスを軽減できればと思います。

野尻 校長先生はいかがでしょうか。

大山 役割としては、授業づくりを進めなければいけないと考えます。教材研究を含めてもつとできることはないかを模索していきたいです。

野尻 小学校の先生方の板書の密さや丁寧な対応、そして中学校の先生方のレベルの高い課題提示や専門性の高さがうまく組み合わせると、9年間を通した授業づくりもさらに進むという感じでしょうか。渡辺学校教育指導主幹はいかがでしょうか。

渡辺 のりしろに関連して、保小中の連携をより一層大切にしていきたいです。保小連携、小中連携それぞれにおいて切れ目のない支援を大事にしていかなければと考えています。保小連携については、のりしろの発想の前倒しと後ろ倒しの取組があるので確実に取り組んでいきたいです。学びについては、授業づくりを大事にしているのでこれまで以上に学校を支えていきたいと思っています。

大山 小学校から教えていただく生徒個人の情報は充実してきたと思います。今後はどんな集団であるかなどについての情報を引き継がなければと思います。例えば、「何に力を入れてきたのか」「どんなことができていたか」などです。そのような情報があることで、生徒に対して適切な声掛けや対応ができると思います。

野尻 集団のアクセスメントを引き継ぐことが小学校7年生の取組にそのまま生かせる感じがしますね。

大山 「ここには力を入れる必要がある」「ここはできていたから大丈夫だな」というように、取組の焦点化にもつながると思います。

野尻 小学校の先生方の力を借りることで、中学校一年生の不登校の未然防止の取組がより具体的に進められる感じがします。



大山 由起子 校長
舟形町立舟形中学校

3 総括

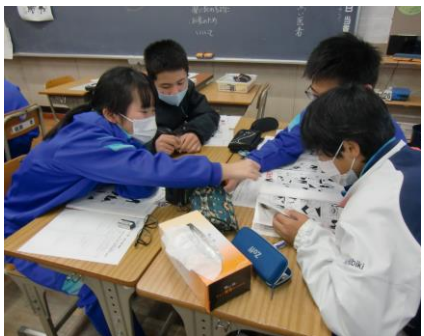
野尻 最後に小野総括研究官と堀センター長からご指導をいただいてよろしいでしょうか。はじめに、小野総括研究官お願いします。

小野 未然防止（集団指導）は新しい取組ではなく、そもそも先生方の業務であり、本来、文化になっているはずですが、なかなかそうはいきません。教師として新しく取り組まなくてはいけないことが多くなったことや地域社会が変わり求められることが広がってきたことが原因だと思います。しかし、先生方が本来すべきことは変わりませんから、しっかりと文化にしていく必要があります。それから、校長先生が何度も仰っているように授業はど真ん中のことです。授業という教科というイメージがあるかもしれませんが、人間関係を学ぶことや社会性を身につけることを含めての授業イメージを大事にしていくことを共通理解していく必要があります。授業力をつけていく上では、校内でチームとして取り組むことが大事です。自分一人では気づかない可能性があるからです。だからこそチームづくりが必要であると感じます。さらに、子ども達を大人として扱うことについては良い効果があり、大事な視点だと思います。まさに心の「居場所づくり」にとって大きなことだと思います。子どもたちは「自分たちがまかされている、頼られている」ということで「必要とされている」というふうに感じ、安心感につながります。先生方でこれらのことを共有できると良いと思います。

野尻 小野総括研究官ありがとうございます。最後に、堀センター長お願いします。

堀 今日見せていただいた強く思ったのは、そもそも素晴らしい学校活動があって、一つの切り口として国立教育政策研究所の魅力事業に取り組んでいただいているということです。国研がお願いしていること、それに対して学校現場からいただくこと、この相乗効果が高めていきたいと考えています。本日のようにお互いにいつも話し合える関係が非常に良いと思います。テレビ会議やズーム会議もできますので、今後も疑問などがありましたら連絡をいただければと思います。

野尻 堀センター長ありがとうございます。本日話題になったことを整理し、今後の取組に生かしていきたいでしょう。以上を持ちまして座談会を終了します。今後ともどうぞよろしくお願います。



舟形中学校の学びの風景



矢部 暁 教諭
舟形町立舟形中学校